

「人材開発支援助成金」の活用例⑪

介護・福祉現場の生産性向上を目的とした人材育成への活用

業務改善を実行し人手不足の解消と生産性の向上を実現した企業が、更なる生産性の向上を実現するため、企業内の人材育成に「人材開発支援助成金」を活用できる事例を紹介します。

現場における課題

- **深刻な人手不足**

介護業界の全体的な問題として慢性的な人手不足。

特に有資格者の採用が難しく、やむを得ず資格を持たない人や未経験者を採用している状況。

課題解決に向けた業務改善

- **資格取得支援制度の拡充**

資格を持たない人であっても、採用後に資格取得することを見込んで、興味や意欲のある人を積極的に採用。

業務の一環で資格取得のための研修を実施し、受講料等の訓練に係る経費は会社が負担。

また、資格取得者に対しては資格手当を支給。

人手不足の解消と生産性の向上

- 従業員の資格取得を促進することで、**有資格者の人手不足を解消**。

さらに、資格手当の支給により、**従業員の処遇改善とモチベーションアップ**。

- 資格取得のための訓練を受講することによって、**事故トラブルを未然に防止できるようになる**など、従業員の技能スキルを向上し、**生産性の向上を実現**。

- 資格の取得により、専門的な知識や技術を有する従業員が増加することで、**品質や信頼性が向上**。顧客満足度の上昇により業績が向上。

人材開発支援助成金の活用方法

「人材開発支援助成金」は、事業主が従業員に対して職務に関連した訓練を実施した場合に、**訓練経費や訓練期間中の賃金の一部などを助成**しています。

上記の取り組みでは、資格を持たない従業員を対象として、資格取得にむけた訓練を実施する場合に、助成金を活用することができます。

<助成金活用のメリット>

- **助成金を活用して人材育成を行うと、研修等の費用負担を抑えることができます。**

- 訓練を実施し、従業員に資格を取得させることで、専門的な業務に就ける人材が確保でき、**組織力の強化につながります。**

- 有資格者が増加することにより、品質の向上が図られ、**生産性の向上も見込まれます。**

